

果樹カメムシ情報第1号

果樹カメムシの飛来数は6月末まで少ない

平成23年4月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

1 平成23年のチャバネアオカメムシ越冬密度調査結果

果樹カメムシ類の主要種であるチャバネアオカメムシの越冬密度調査を県内15地点で行った結果、いずれの地点も越冬成虫を確認することができず(表)、過去10年で最も少ない越冬密度でした。越冬密度は5～6月の予察灯累積誘殺数(チャバネアオカメムシの発生量)の予測に利用できます(図1)。

表 チャバネアオカメムシ越冬成虫密度(H23年)

調査地点	成虫密度 (頭/m ²)
幸田町大字須美北山北	0.0
幸田町大字須美北山東	0.0
新城市大海	0.0
新城市市川	0.0
新城市中宇利	0.0
新城市稲木	0.0
豊橋市嵩山	0.0
豊橋市石巻中山	0.0
豊橋市石巻萩平	0.0
豊橋市石巻平野	0.0
豊橋市小野田	0.0
豊川市平尾	0.0
豊川市千両	0.0
豊川市足山田	0.0
豊川市金沢	0.0
平均	0.0
発生確認地点数(割合)	0.0

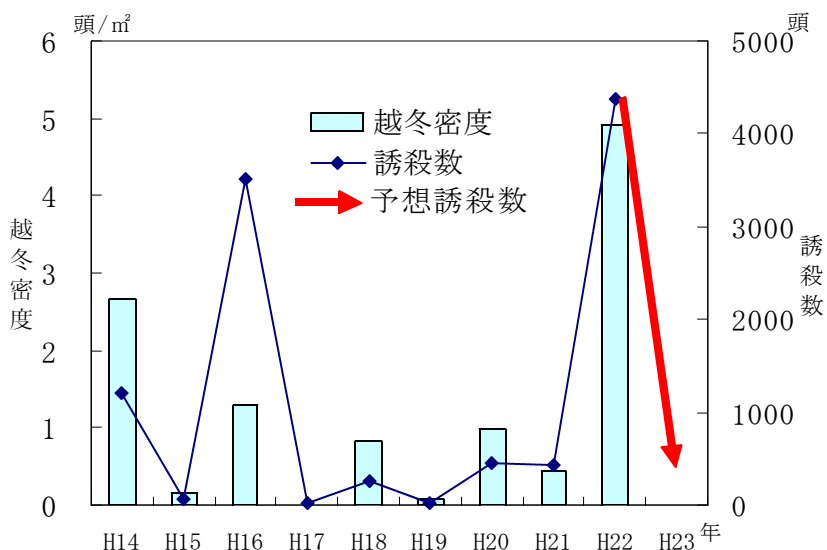


図1 チャバネアオカメムシの平均越冬密度と予察灯誘殺数(豊橋・新城 5～6月)の関係

2 スギ・ヒノキ科花粉総飛散数と越冬成虫の予察灯における誘殺数の関係

スギ・ヒノキ科花粉総飛散数が少なかった年の翌年は、5月～6月のチャバネアオカメムシ越冬成虫の予察灯誘殺数が少なくなる傾向があります。平成22年は、スギ・ヒノキ科花粉総飛散数が平成16年に次いで過去10年で2番目に少ない年でした(図2)。

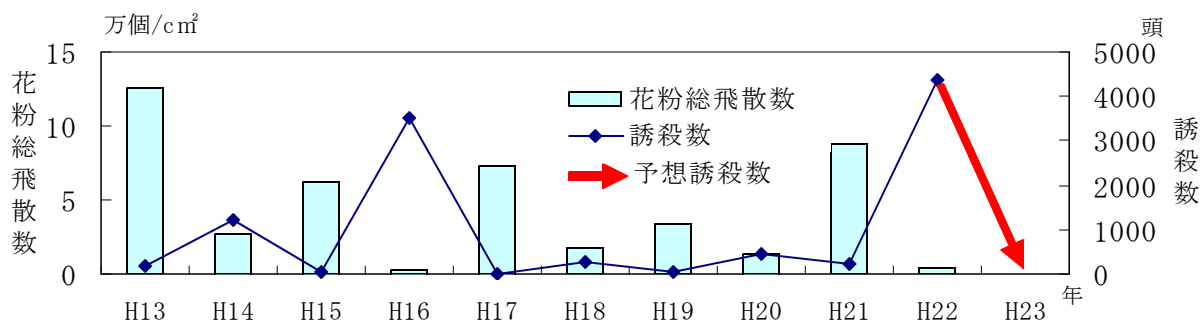


図2 スギ・ヒノキ科花粉飛散総数とチャバネアオカメムシ予察灯誘殺数(豊橋・新城 5～6月)の関係(花粉飛散総数:愛知県衛生研究所調べ)

3 飛来の予測

チャバネアオカメムシ越冬密度及び前年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数から、6月末までのチャバネアオカメムシの発生量は少ないため、果樹園への飛来数は少ないと予測します。